

第4回江戸川防災勉強会

台風19号の

水害に学ぶ

～大規模広域災害の時代に
求められる対策とは～

日時 3月15日(日)14:00～16:00

会場 タワーホール船堀2F「福寿」(裏面に
地図)

資料代 500円

- <講演> 嶋津暉之さん (水源開発問題全国連絡会共同代表)
(元東京都環境科学研究所研究員)
「スーパー堤防とハツ場ダムは東京を守ったか」
- <講演> 石崎勝義さん (元建設省土木研究所次長)
「今こそ破堤を防ぐ堤防整備を」

主催 江戸川防災勉強会

お問合せ・お申込み 03-5607-5975 soreyuke@net.email.ne.jp

● 江戸川防災勉強会 ●

荒川と江戸川に囲まれ、東京湾に面する江戸川区は、ゼロメートル地帯でもあり、自然災害、特に水害に対するソフト・ハード面での対策が欠かせません。適切な対策を講じるには、まずは事実の共有、そして区民の意見が反映されることが大事ではないかと考えます。江戸川防災勉強会は、2011年の東日本大震災により甚大な被害を受けたことをきっかけに、2012年発足しました。

● 第4回のテーマ ●

昨年10月の台風19号は、堤防の決壊により、広範囲の地域に深刻な被害をもたらしました。今回の防災勉強会は、多発する水害の危機に対して、求められる対策は何かをテーマに、ダムや堤防に詳しいお二人の専門家を講師にお招きし、お話をお聞きすることにしました。お二人は、第3回防災勉強会(2016年4月)「鬼怒川決壊に学ぶ」でもご講演いただきましたが、気候変動により、荒れる気候の時代となった今、再度ご登壇いただきます。

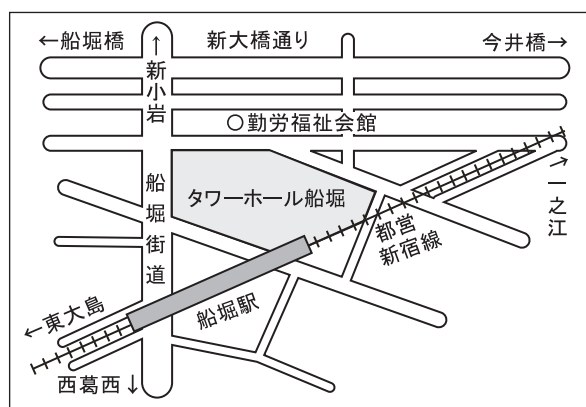
● 講師の紹介 ●

嶋津 暉之 (しまづ てるゆき)さん / 水問題研究家

1943年生まれ。東京大学工学部都市工学科卒。同大学大学院工学系研究科博士課程単位取得満期退学。元東京都環境科学研究所研究員。「東京の水を考える会」「水源開発問題全国連絡会」など、市民運動に精力的に取り組む。スーパー堤防裁判、八ツ場ダム裁判で意見書提出。著者に「水問題原論」(北斗出版)、「首都圏の水が危ない」「八ツ場ダム 過去・現在そして未来」(以上共著、岩波書店)他。埼玉県三郷市在住。

石崎 勝義 (いしざき かつよし)さん / 工学博士・技術士(河川・環境)

1938年生まれ。東京大学工学部土木工学科卒。元建設省土木研究所次長・水文研究室長、河川局災害対策室長、木曾川下流工事事務所長。長崎大学環境科学部教授、早稲田大学持続的未來研究所客員教授など歴任。鬼怒川水害裁判を支える会の共同代表。最近の論文に岩波書店「科学」(2019年12月号)に「河川氾濫への備えを考える」。茨城県つくばみらい市在住。



= タワーホール船堀 =
東京都江戸川区
船堀4-1-1

都営新宿線
船堀駅 北口スグ